

**第4回共同体育館整備に
係る意見聴取会議
(令和5年12月20日)**

1 共同体育館整備に係る意見聴取会議の開催経過

第1回 令和4年 8月10日

議事 会議の設置及び運営について、共同体育館整備に係る経過、課題、議論の方向性について

第2回 令和4年11月16日

議事 共同体育館整備に係る論点整理と方向性について

第3回 令和5年 4月26日

議事 共同体育館に係る整備内容の検討について

(参考)

○北山エリア整備に係るワークショップ
(令和4年11月27日、12月4日開催)

○共同体育館整備に向けた学生ワークショップ
(令和4年12月19日、令和5年2月16日、3月22日開催)

2 これまでの意見聴取会議におけるご意見

<第3回会議までにいただいた委員意見>

- ・既存の第2体育館を残して活用すれば、文化系クラブの要望も含めた学生が求める機能はかなり充足できるのではないか
- ・学生が求める程度の規模で、地域も活用できる方向性がいいのではないか
- ・ワークショップに参加しなかった学生や府民からの意見も考慮し、バランスを取りながら検討していく必要がある
- ・環境面や経営面、社会的な面から総合的に見て持続可能な施設となるよう、施設規模は慎重に見極める必要がある
- ・現段階で学生が望んでいるものは将来的にどのような体育館がいいのかという観点ではないので、IT環境の変化や研究との連携等も考えられるとよい
- ・学生や地域住民の想いに寄り添う施設が望ましく、競技団体が求める施設は別途検討できればよい
- ・多様性と調和に配慮した施設整備を行う際には、多くの方がそこに集えるようなアクセシビリティの確保が重要
- ・地震や水害等の災害時に地域の安全拠点となるような施設になるとよい

(参考) 第3回会議において情報共有した内容

府民WSでの意見	<ul style="list-style-type: none">・府民が気楽に使えるトレーニングルームや雨の日でも走れる場所などが欲しい・大学体育館なので規模や観客席は必要最小限でよい・災害時には避難場所等として機能できるようにしてはどうか 等
学生WSでの意見	<ul style="list-style-type: none">・競技面は現状よりもバスケットコート1面分が増える程度で十分。大規模な観客席は不要・武道関係のクラブや文化系クラブの活動場所について拡充してほしい

3 京都府におけるスポーツ施設のあり方懇話会について

<設置目的>

京都府におけるスポーツ施設のあり方について、スポーツ振興や行政経営等に関して優れた識見を有する専門家から多角的に意見を聴くために設置するもの

<開催経過>

令和5年度は、屋内スポーツ施設の整備についての意見聴取を現地調査含めて計4回実施（令和5年8月3日～11月10日）

<意見聴取の内容>

府内でスポーツ施設が不足している現状や、国際大会開催に必要な仕様などを踏まえた上で、現在、多様な活用方法を検討している京都府立大学と向日町競輪場を候補地としながら、意見聴取を実施

4 これまでのスポーツ施設のあり方懇話会で聴取した意見

<屋内スポーツ施設の現状について>

府内に屋内スポーツ施設が不足している状況の中、

- ・既存施設の老朽化が進んでいる
 - ・府内体育館の現状では国際大会の誘致は難しい
 - ・京都で大会を開催したいという声は全国的にも多くあるが、ほとんど実現できていない
- といった課題もあり、複数の委員から新設を求める意見あり

<主な論点>

国際大会、プロスポーツ	<ul style="list-style-type: none">・京都は体育館の整備が遅れており、競技団体同士で取り合いになっている・国際大会のレベルが上がると、付属施設の要求も上がるため、各競技の国際基準を確認の上、整備を実現していくべき
多機能・複合的	<ul style="list-style-type: none">・多機能化により経済的な観点と社会的な観点の両面で価値を生み出すことができ、周辺と複合的に整備することでまちづくりや地域活性化に繋がる
賑わい創出	<ul style="list-style-type: none">・京都市は観光公害が起こっており、市内中心部にさらに賑わいを生む大規模な集客施設の整備は慎重に考える必要がある
地域の安心拠点	<ul style="list-style-type: none">・住民の理解が得られるよう、防災拠点でスポーツができるなどの発想の転換が必要
子どもたちの活動拠点	<ul style="list-style-type: none">・「する・見るスポーツ」を通じて、青少年の健全な育成につながるようなスポーツ施設にしていくべき
未来志向	<ul style="list-style-type: none">・通信環境や道路環境なども含め、未来を見据えて計画を立てる必要がある・持続可能な運営のためには、経済的と社会的価値の両面が重要
整備候補地	(P. 5～6 参照)

4 これまでのスポーツ施設のあり方懇話会で聴取した意見

<整備候補地に関連する意見①>

府立大学関連

(周辺環境)

- ・ 持続可能な運営という観点では、ライブやコンサートなどの興行で稼働率を上げ、収益を出す必要があるが、府立大学は学生中心であり、周辺環境も踏まえると難しい

(既存施設の状況)

- ・ 現地調査の際、手入れが行き届いておらず学生が気の毒という印象を持った。キャンパス整備とスポーツ施設の両方の整備が考えられるとよい

(運用面)

- ・ 3大学の利用に加えて競技団体まで利用することは運用上難しいのではないか
- ・ 京都市内は利便性が高いが、駐車場が少ない課題については検討が必要

(目指すべき方向性)

- ・ 府立大学は京都市内で利便性も良いので、幅広い方々に親しまれ、地域活性化にも繋がられる施設を検討してはどうか
- ・ 1万人規模のアリーナは難しいと思われるので、府大は学生と地域が交流できるスポーツ施設を目指すべき

4 これまでのスポーツ施設のあり方懇話会で聴取した意見

<整備候補地に関連する意見②>

向日町競輪場関連

(周辺環境)

- ・競輪場では周辺住民の理解を得る取組を続けてきており、新しい施設を受け入れる素地がある

(既存施設の状況)

- ・付帯施設も整備し、試合や興行のない日でも気軽に立ち寄れる場所になるのではないか

(運用面)

- ・年間を通じて稼働率を高めて賑わいを創出していくことも十分に検討可能

(目指すべき方向性)

- ・敷地全体を使った多機能・複合的な施設整備を行い持続可能な運営を図るべき
- ・向日町であれば、1万人規模のアリーナについての議論を深めていけるのではないか

整備地全般

- ・府域全体で既存施設も含めた全体最適を図る必要がある
- ・地域のコンセンサスが大事
- ・京都らしさについて考慮しながら文化芸術等での活用も含めて検討してほしい

前回の意見聴取会議開催後に新たに開催された「スポーツ施設のあり方懇話会」での検討状況を紹介させていただいた

委員の皆様には、これまでの意見聴取会議の内容を踏まえ、改めて御意見を頂戴したい